

《梦十夜》之第十夜 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

[https://www.100test.com/kao\\_ti2020/146/2021\\_2022\\_\\_E3\\_80\\_8A\\_E6\\_A2\\_A6\\_E5\\_8D\\_81\\_E5\\_c105\\_146227.htm](https://www.100test.com/kao_ti2020/146/2021_2022__E3_80_8A_E6_A2_A6_E5_8D_81_E5_c105_146227.htm) 庄太郎が女に攫(さら)われてから七日目のにふらりとして来て、急にがでてどっと、床に就(つ)いていると云って健(けん)さんが知らせに来た。庄太郎は町内一の好男子(こうだんし)で、至(しごく)善良な正直者である。ただ一つの道がある。パナマの帽子を被(かぶ)って、夕方になると水子屋(みずがしや)の店先へ腰をかけて、往来(おうらい)の女のを眺めている。そうしてしきりに感心している。そのほかにはこれと云うほどの特色もない。あまり女が通らないは、往来をないで水子をしている。水子にはいろいろある。水蜜桃(すいみつとう)や、林檎(りんご)や、枇杷(びわ)や、バナナを(きれいに)に(かご)に盛って、すぐ舞物(みやげもの)に持って行けるように二列にべてある。庄太郎はこのをては(きれい)だと云っている。商をするなら水子屋に限ると云っている。そのくせ自分はパナマの帽子を被ってぶらぶらんでいる。この色がいいと云って、夏蜜柑(なつみかん)などを品する事もある。けれども、かつて(ぜに)を出して水子をつた事がない。ただでは食わない。色ばかり(ほ)めている。ある夕方一人の女が、不意に店先に立った。身分のある人とえて立派な服装をしている。その着物の色がひどく庄太郎のに入った。その上庄太郎は大女のに感心してしまった。そこで大事なパナマの帽子を脱(と)って丁(ていねい)に挨拶(あいさつ)をしたら、女は(かごづめ)の一番大きいのを指(さ)して、こ

れを下さいと云うんで、庄太郎はすぐそのを取って渡した。すると女はそれをちょっと提(さ)げてて、大重い事と云った。庄太郎は元来人(ひまじん)の上に、すこぶる作(きさく)な男だから、ではお宅まで持って参りましょうと云って、女といっしょに水子屋を出た。それぎりって来なかった。いかな庄太郎でも、あんまり(のんき)きる。只事(ただごと)じゃかろうと云って、や友がぎ出していると、七日目になって、ふらりとして来た。そこで大寄ってたかって、庄さんどこへ行っていたんだいとくと、庄太郎はへって山へ行ったんだと答えた。何でもよほどいいにいない。庄太郎の云うところによると、を下りるとすぐと原へ出たそうである。非常にい原で、どこをしても青い草ばかり生(は)えていた。女といっしょに草の上をいて行くと、急に壁(きりぎし)の天(てっぺん)へ出た。その女が庄太郎に、ここらびんで御なさいと云った。底を(のぞ)いてると、切岸(きりぎし)はえるが底はえない。庄太郎はまたパナマの帽子を脱いで再三辞退した。すると女が、もし思い切ってびまなければ、豚(ぶた)に舐(な)められますが好うござんすかといった。庄太郎は豚と右が大嫌(だいきらい)だった。けれども命には易(か)えられないと思って、やっぱりびむのを合せていた。ところへ豚が一匹鼻をらして来た。庄太郎は仕方なしに、持っていたい槲(びんろうじゅ)の洋杖(ステッキ)で、豚の鼻(はなづら)を打(ぶ)った。豚はぐうと云いながら、ころりと引(ひ)っ(く)り返(かえ)って、壁の下へ落ちて行った。庄太郎はほっと一(ひ)と息接(いきつ)いでいるとまた一匹の豚が大きな鼻を庄太郎に擦(す)りつけに来た。庄太郎は

やむをえずまた洋杖を振り上げた。豚はぐうといてまた真逆(まさかさ)に穴の底へ(ころ)げんだ。するとまた一匹あらわれた。この庄太郎はふとがついて、向うをると、遥(はるか)の青草原の尽きる(あたり)から万匹か数え切れぬ豚が、群(むれ)をなして一直に、この壁の上に立っている庄太郎を目(めが)けて鼻をらしてくる。庄太郎は心(しん)から恐した。けれども仕方がないから、近寄ってくる豚の鼻を、一つ一つ丁(ていねい)に槲の洋杖で打っていた。不思議な事に洋杖が鼻へ触(さわ)りさえすれば豚はころりと谷の底へ落ちて行く。(のぞ)いてると底のえない壁を、逆(さか)さになった豚が行列して落ちて行く。自分がこのくらい多くの豚を谷へ落したかと思うと、庄太郎は我ながら怖(こわ)くなった。けれども豚は々くる。に足が生(は)えて、青草を踏み分けるようないで尽(むじんぞう)に鼻をらしてくる。庄太郎は必死の勇をふるって、豚の鼻を七日(なのか)六叩(むばんたた)いた。けれども、とうとう精根が尽きて、手が(こんにやく)のように弱って、しまいには豚に舐(な)められてしまった。そうして壁の上へ倒れた。健さんは、庄太郎のをここまでして、だからあんまり女をるのは善(よ)くないよと云った。自分ももっともだと思った。けれども健さんは庄太郎のパナマの帽子がいたいと云っていた。庄太郎は助かるまい。パナマは健さんのものだろう。 100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问

[www.100test.com](http://www.100test.com)